

AIDS UPDATE

No.79 2008.1.25

広島大学病院
エイズ医療対策室
内線5581(輸血部長室)
Internet:www.aids-chushi.or.jp

第1回中国四国地方エイズ治療拠点病院 医師のための研修会を終えて

広島大学病院エイズ医療対策室では、年明け間もない1月5日、6日に中国四国地方で初めてのエイズ治療拠点病院医師向けの研修会を開催致しました。新年が始まりお忙しい中にも関わらず、九人の先生方にお越しいただき、講師の先生方のご協力のもと、無事研修会を終える事ができ心より感謝申し上げます。

当対策室では、看護師・薬剤師対象の研修会やソーシャルワーカー対象の会議を毎年開催しており、各県より多くの方々に参加いただいております。医師研修会は以前よりACCや大阪医療センターで行われておりますが、研修に参加するにはまとまった時間が必要であり、お忙しい拠点病院の先生方にとって時間を割くことは大変なことでした。



そこで、近場でもっと手軽に参加できる初心者～中級者向けの地方の研修会を開催し、仕事への少ない負担でエイズ医療に関する知識を得られるようにしようと、当ブロック拠点病院での医師研修会を行う運びとなりました。今回は血液・呼吸器・消化器・神経内科、総合診療部、皮膚科、歯科口腔外科と様々な領域を専門とする先生方にお集まりいただきました。



初日には、我が国のエイズ医療体制の変遷と現状、HIV感染者の心理社会的支援、HIV感染症と日和見感染の治療についての講義が行われました。エイズ医療の基本的な知識を再確認できる内容で

あったと思います。さらに当院の自験例(カポジ肉腫例、エイズ関連悪性リンパ腫例)の症例検討会を行い一日目は終了となりました。

二日目はしらかば診療所の井戸田先生によるセクシャリティーの講義、臨床心理士による心理カウンセリングの講義があり、HIV感染者の心理的な側面について学ぶことができました。また、検査結果の告知場面のロールプレイなども行われ、ディスカッションが盛り上がり、講義を聴いているだけよりも能動的な経験ができ良かったのだと思います。

今回参加された先生方のご意見も参考に、私が考える今後の医師研修の方向性として、

HIV専門医に限らず、各科のドクターが参加でき、エイズ診療についての基本的な知識を学ぶことができるようにする(感染者増加に伴い、総合病院であればどの専門領域でもHIV患者を診療する機会は少なからずあるため)。仕事への負担を考慮し、一日だけの研修もしくは一日目だけでも参加意義のある研修プログラムにする。症例検討会では研修される先生方に実際に悩んでおられる症例を持参していただき、皆で議論する。

以上に関して実現できるように尽力したいと思います。来年度からの研修がより意義のあるものにできるよう頑張っていきたいと思いますので、皆様のお力添え宜しくお願い致します。

(エイズ医療対策室 医師 齋藤)



第21回日本エイズ学会学術集会 「Step Up! 情報と教育」に1200人を越える参加者

昨年11月28日(水)から30日(金)までの3日間、第21回日本エイズ学会学術集会・総会が広島国際会議場において開催されました。1987年に研究会として発足したとき以来、基礎や臨床の医学関係者にとどまらず、心理や福祉の専門家などのケア提供者、さらに企業や行政や教育の関係者、患者団体やNGO/NPOの人たちも参加するきわめてユニークな学会として成長してきました。

今年は「STEP UP! 情報と教育」をメインテーマとしました。参加者数は1240人と過去最大クラス。当院を始め県立広島病院や広島市民病院を含めた看護部、診療支援部、薬剤部の職員、広島の学生、大学院生、製薬メーカー、NGOの皆さんなど、累計150人のボランティアによって支えられたことに、まず感謝したいと思います。この場を借りてお礼を申し上げます。

特別講演ではMerck社のDaria Hazuda先生に、新しい作用機序の抗HIV薬であるインテグラーゼ阻害剤について、また、カリフォルニア大学サンフランシスコ校のMitchell Feldman教授には医療従事者へのエイズ教育のお話をさせていただきました。

また、本学会では新たに教育講演を開催し、「医療者は患者にどう性的話をするのか」、「HIV感染における神経障害」、「HIV-1の種特異的増殖」、「APOBEC3G/VifによるHIV-1の複製制御」、「自立支援医療：患者への説明のコツ」、「薬物依存症とHIV感染症 -予防的な働きかけを中心に-」、「HIV定量法の進歩とその臨床応用 -

生殖医療への応用-」、「HIV感染と免疫応答」、「発展途上国における医療現場と分子レベルの医科学研究との架け橋」、「血液はどこまで安全か」という10題を用意しました。眠たい目をこすりながら、講義に参加する方の多さに驚かされました。



その他、15題のシンポジウム・4題の共催シンポジウム・サテライトシンポジウムにおいても、ウィルスの研究から予防啓発やカウンセリング、教育やチーム医療、診療に関する最新の知見まで、バラエティーに富んだセッションが用意され、参加者の方にご満足していただけたものと思っています。

セミナーや市民公開講座もありました。中でも基礎系94、臨床系166、社会系75の合計335題の一般演題の発表があり、参加者による活発な討論がありました。演題の締め切りまでヒヤヒヤしながら見守った演題登録数は、終わってみれば過去最多となりました。3日間とも幸い天候に恵まれ、最後のセッションが終わる夕方8時過ぎに、参加者たちはイルミネーションで飾られた広島の夜の街に消えていきました。



学会の成功にご尽力いただいた皆さんや、全国各地から広島へお越し下さった皆さんに心よりお礼を申し上げます。

第21回日本エイズ学会学術集会
会長 高田昇



12/1 世界エイズデー@アリスガーデン エイズ予防啓発に、当院の看護師が活躍しました

昨年12月1日、広島市と広島県の主催でエイズ予防啓発イベントがアリスガーデンで開催されました。このイベントは一昨年からはまり、2回目の開催となります。1回目は広島市だけで開催し、予防啓発グッズを配布するという内容だったそうです。

1回目が終わり、広島市の職員の方が、来年はもっと大きくしたい!!と強く思っていたら、来年はどうか、是非私も協力したいと、その後広島県や広島市と会議を重ね、イベントに備え準備を進めてきました。



今回はアマチュアバンドの演奏、カーブ選手によるクイズ、HIV抗体検査の実施などが企画されました。私は、HIV抗体検査を担当し、検査に必要な資料を集めたり、物品の確認を行いました。また検査には数人のスタッフが必要でしたので、当日は当院のエイズワーキングメンバーにも参加していただきました。

いよいよ、当日。イベント検査は初めての試みでしたので、何が起きるか分からない不安もある中、とうとうイベント当日が来たという気持ちでした。イベント開始4時間前からアリスガーデンに行き、テントや椅子の設置、ポスター貼りを行い、皆でどのようにしたらイベントがうまくいくかということを考え、ポスターの掲示場所や掲示方法についても工夫して会場設営にあたりました。

抗体検査は、アリスガーデン隣のユノ川クリニックで行いました。当初、4時間で30人の受検



者を目指していたのですが、終わってみれば63人の受検者がありました。アリスガーデンで開催したことが影響して、10代～30代の受検者が、受検者全体の85%を占め、元々若年層をターゲットにしたイベントだったので、その点については成功したと思える結果でした。ただ、予定の2倍の受検者があったため、じっくり受験後のカウンセリングを行うことが出来なかったのが、自分の中での反省点です。

今回のイベントでの問診票に、コンドームを使用していると書いた受検者は半数でした。また、受検者と話しをする中で、STD（性感染症）の既往があってもコンドームを使用していない状況もありました。次回からは、今後のSTD予防について、本人たちにしっかり考えてもらえるようにしたいと思います。

一方、アリスガーデン内で行われたイベントでは、啓発グッズを5000個配布し、にぎやかだったようです。（私はほとんどユノ川クリニックの中において、あまり見ることができませんでした。）詳細は



<http://www.city.hiroshima.jp/www/contents/00000000000000/1196810213224/index.html>にアクセスして下さい。（写真に写っている9階西病棟の看護師さんを見つけられますか？）

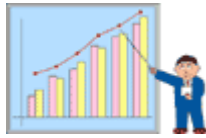
（エイズ医療対策室看護師 後藤）

在日外国人の保健支援に役立つ 外国人HIV陽性者支援セミナーに参加して

昨年11月3日、大阪で「在日外国人の保健支援に役立つ外国人HIV陽性者療養支援セミナー」が実施され、エイズ医療対策室から船附が参加して参りましたので、報告をさせていただきます。

在日外国人のHIV/AIDSの現状と社会資源

滞在資格を持たない外国人を含めると、現在日本に在住している外国人はおよそ17万人と推測され、中でも特にラテンアメリカ系移民が急増しており、自動車産業が盛んな都道府県の下請工場などで働いている人が多いそうです。また、在日外国人の多くは安い賃金で過酷な労働を強いられており、医療費の負担や欠勤による解雇の不安から受診につながりにくく、病気の重症化や高い死亡率が報告されています。特にHIV/AIDSについては、日本のHIV感染者累積報告数の4分の1を外国人が占めています。



重症化しての受診・入院治療などが必要になると、高額な医療費や精神的負担から病院へのアクセスがしにくくなること、また医療機関側による外国人患者の忌避も起こりうるそうです。自治体によっては未払い医療費を補填する制度を定めている地域もあるようですが、言語コミュニケーションの支援、医療費制度の利用へつなげていく関わりにおいて、ソーシャルワーカーとの連携が鍵になるとのことでした。



NGOによる支援と母国の医療事情

関西地域で外国人HIV陽性者への支援を行なっているCHARM(チャーム)の青木先生から、医療通訳者派遣やHIV抗体検査、電話相談、医療以外の手続きの通訳や同行(在留資格など)について、サービスの紹介が、また、タイや東南アジア地域のHIV陽性者支援を行っているSHARE(シェア)の李先生から、帰国支援事例について報告がありました。

プライバシーの面から、会社の通訳や友人に頼ることよりも、医療通訳が介在して受診することが望ましいことや、母国の治療状況によっては、患者さんが帰国しても服薬などのHIV治療ができない場合もあるので、帰国支援には必ず母国の医療状況の確認が必要であることを学びました。患者さんの地域生活は医療機関だけではフォローできませんので、NGOや保健師との信頼関係作りも有用であると思いました。

また、その後の事例紹介や事例検討では、文化・慣習面での言語やコミュニケーション、宗教上の違いから生じる問題や、ビザや保険、緊急医療や病気に対する理解の問題など多種多様な問題が内包された事例であり、非常に勉強になりました。

外国人の患者様が来られると、まず言葉の問題に直面します。通訳の方を捜すことができず、本当は余り望ましくないのだけど・・・と思いながらも、ご家族や付き添いの方を通して話をしたり、翻訳ツールに頼って行なったりすることがあります。

広島市でも外国人支援の部署はいくつかありますが、医療通訳の依頼となると断られることが多く苦労した経験があります。また、医療通訳の方にも高い言語能力やプライバシー厳守などの資質が求められますので、こちら側が安易に依頼することに躊躇してしまう面もあります。

大阪では信頼できるNGOと連携しながら、医療通訳を利用できたり、外国人が地域で生活していくための多様なサービスを利用できると聞き、大変うらやましく思いました。外国人患者さんがいつ来られてもいいように、日ごろから外国人支援のリソースを確保し、信頼関係を築くことが大事であると思いますが、なかなか難しいと頭を悩ませる研修会でした。

(エイズ医療対策室 ソーシャルワーカー 船附)

エイズ医療対策室 イベントのご案内

エイズ医療対策室では院内外に向けてのHIV/AIDS研修会を今後も継続していきます。終了した研修会や会議については、これまで同様、AIDS UPDATEにてご紹介させていただきます。と は、広島大学病院で教職員を対象に開催しますので、興味のある方はぜひお越し下さい！後日詳細をお知らせ致します！

『第3回HIV/AIDSソーシャルワーカーネットワーク会議』

2月9日（土）～10日（日）@県立広島大学三原キャンパス



『沖縄県におけるHIV診療の現況～急増する地方の拠点病院の取り組み～』

2月19日（火）@広島大学医学部第4講義室

『薬物依存症とHIV感染症-予防的な働きかけを中心に-』

3月3日（月）@広島大学医学部基礎棟 セミナー室2



関連イベントのご紹介

今年度内のHIV/AIDS関連イベントのご紹介です。2月18日のイベントに関しては、どなたでも参加可能ですので、興味のある方はご参加下さい。

【中国四国ブロックエイズ治療拠点病院等連絡協議会】

日時：2008年1月30日（水）14:00～

会場：鯉城会館5階

【HIV感染者就労のための協働シンポジウム報告会】

日時：2008年2月18日（月）15:00～

会場：アステールプラザ大会議室

【ブロック拠点病院定例連絡会議】

日時：2008年2月20日（水）17:30～

会場：広島市立広島市民病院

【第1回包括的HIVカウンセリング研修会】

日時：2008年3月15日～16日

会場：八丁堀シャンテ

今後の研修会の予定、また終了した研修会をご覧になりたい場合は、下記ホームページ内イベントカレンダーでもご覧いただけます。

<http://www.aids-chushi.or.jp/>

また、HIV/AIDS関連の資料、紙面でご紹介した研修会や会議の資料をご覧になりたい方は、下記までご連絡下さい。

<ご意見募集>

ご意見やご希望がありましたら、エイズ医療対策室(5351/5581)までお寄せください。

[TAKATA]